

低学年分科会 目指す児童像

読んで、自分の考えをすすんでもとうとする児童

単元名 「自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつに手紙を書こう」

教材名 「お手紙」(光村図書)

本時の目標 人物の会話文や行動に着目し、人物や場面の様子を具体的に想像することができる。

学習活動	○指導上の留意点	◆評価 ★評価方法
1. 前時の振り返りをする。 2. めあてを把握する。	○前時のワークシートをもとに、叙述を根拠に想像している記述を紹介する。 ○児童の感想に、本時に関わる疑問があれば紹介してめあてにつなげる。	
かえるくんがお手紙を出したことを言ったのは、よかった？		
3. 音読をする。		
4. 「言ったほうがよかった」「言わないほうがよかったか。」を考える。 ○言わないほうがよかった ・もらった時の喜びが減ってしまう。 ・手紙を書いた意味がなくなる。 ○言ってよかった ・がまくんの落ち込んでいる姿を見たくない。 ・待つ時間も幸せになった。 5. がまくんの気持ちの変化を考える。	○前時までの学習をまとめたワークシートや掲示物を参考にさせる。 ○みんながかえるくんの立場なら言うか言わないかを考えさせる。 ○がまくんの心が大きく動いたと分かる会話文を見つけさせる。「きみが。」「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」 ○ペアでかえるくんとがまくんに分かれ、なりきって音読をさせる。 ○友達の読み方の良かったところや、どうしてそのように読んだのかを聞く。	◆「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(思) [★発言・記述]
6. 登場人物の心のつぶやきを書く。	○ワークシートに人物の心のつぶやきを書かせる。 ○叙述を基に豊かに想像できている児童の記述を取り上げ、クラス全体に紹介する。	◆「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(思) [★発言・記述]

研究主題に迫るための工夫

① 学習活動の工夫

登場人物と自分を比べながら読むことができるように、登場人物になりきって音読をする活動を積極的に取り入れる。会話文の読み方について、叙述を根拠に意見を交流する活動も行う。叙述や挿絵から表情や口調、様子、会話の間などに着目し、より具体的な登場人物の行動や様子に迫る。

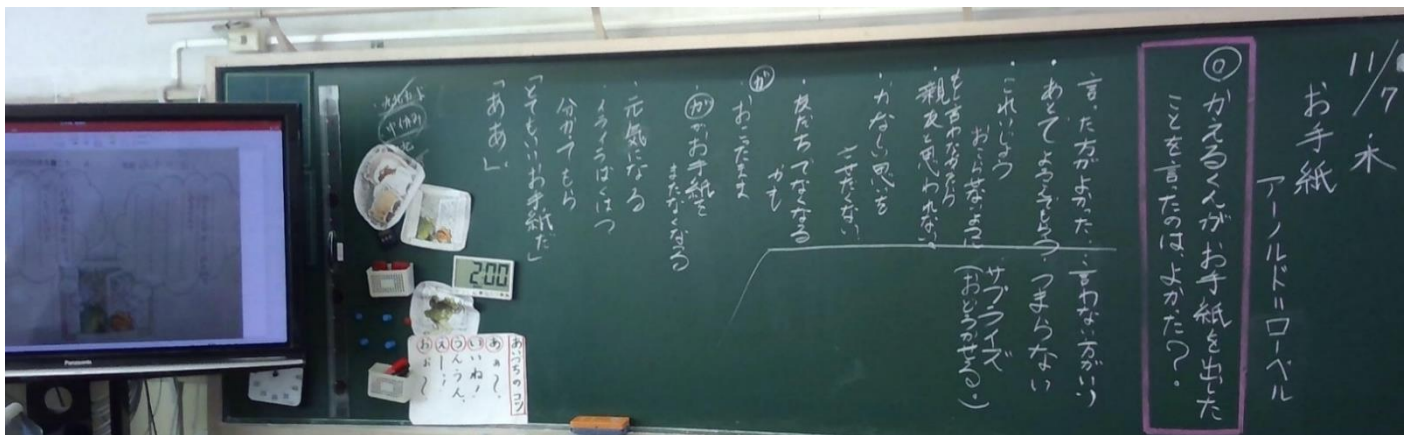
② ワークシートによる自己表現の工夫

ワークシートに吹き出し形式を取り入れ、登場人物の「心の声」を書くことで、その人物と自分との同化を図る。自分と比べながら読み進めることで、さらに登場人物についての想像を広げていく。ただし、①の手立てと関連付け、叙述を根拠に考えを広げる。

③ 教科内容の明示化

特定の教材だけの読み方ではなく、国語科の教科としての学びを明示化することで、他の教材や日常の読書への読み方に活用できるようにする。(例：人物の行動から気持ちが分かる。自分と比べると読み方が深まる。など)

板書



【分科会の成果と課題】

<成果>

- ・音読のバリエーションが多彩だった。お面を使ったり、立ったり、いすを使ったりして、登場人物の気持ちを動作化で考えられていた。
- ・子供の活動が多かった。話す、聞く、書くを多く取り入れ、自分の思いを表現する活動をたくさん取り入れていた。
- ・「文に証拠ある？」の問いかけを行い、児童は叙述をもとに登場人物の心情を捉えようとしていた。

<課題>

- ・自分の考えをもった上での音読を、展開の後半に入れられると、より心情に迫ることができた。
- ・人物の心の声に子供たちがどんなことを書いたのか、授業の終わりに発表できるとより良い。

【講師からの指導】

- ・全文読みについて。今回は場面読みだったが、全文を通して問いをもたせて、読みを深めていくことも検討してもらいたい。
- ・よい授業とは、子供が思考を働かせながら、基礎・基本を身に付けること。「活動あって学びなし」の授業にならないように、活動と思考がリンクするように。授業評価をする際、国語のこの力が付いたと言えるような視点が必要。